

## 88. 継続は力なり

この情報メールの記事には元ネタがあります。J S 内部向けに昭和 63 年頃から月刊で発行し続けているニュースレター「技術開発部だより」です。この中から記事を選別し独自の記事を加えメルマガを編集しています。いい意味での「使いまわし」です。昭和 47 年の J S 設立から数えると「部だより」は、J S 技術開発部の半分以上の期間の出来事を記録し続けています。統計や年表には出てこないことが記録されています。人の知識や経験は、その人がいなくなると頼れなくなります。J S は人の動きが激しいので、当時、何があり誰が終んだのかを探る場合などに「部だより」は人の記憶を補完する貴重な資料となっています。継続するとそれはそれで力となります。

近年、J S 技術開発の成果を問われる場面が多くあります。よく引き合いに出すのが OD 法やペガサス、近年の成果ならステップ多段法や MBR などです。ところが、この辺の開発経緯を知らない人からは、いとも簡単に「OD 法の普及は J S がなくてもできたのではないか」などと言われます。J S ではなくても J S の役割をどこかで担う必要はありました。そのことは現在も変わっていません。組織も人と同じで、その組織が営々と育んだ知識や経験は、組織がなくなれば継続せずに相当部分が消失します。次への展開にも繋がりません。継続するにはこれまた努力が必要で、最近、富みに、J S 技術開発の成果を発信し続け、人々の記憶に残す重要性を痛感している次第です。

ちなみに、この情報メールには、創刊号ならぬ「第 0 号」というものがあります。バックナンバーも残っていません。記憶している人はほとんどいないと思います。創刊号の発行が遅れ、窮余の策で「お詫び」を「第 0 号」で配信したのです。遅れた理由は忘れましたが、今回の情報メールの発行が遅れたのは、私の原稿が遅かったからです。お詫び申し上げます。

<技術開発課長 川島 正>

※ J S 技術開発情報メール No. 96 号(2009/11/12)に掲載